組織的調査研究活動推進事業（抄録）

大島展志・中村幹雄・山本孝二

中海・宍道湖淡水化後の魚種転換対策の一環として，琵琶湖で特産となっているセタシジミの宍道湖への移殖の可能性をもとめて，昭和57・58年度に水産庁の指定を受け組織的な調査研究を行った。セタシジミの移殖試験は，中海干拓事業の着工前の昭和41・42年に行ったが，放流後にへい死が続出し移殖は困難であるとした。しかし，八郎湖では移殖後11年で再生産が確認され漁業の対能となった。このようなことから，再度セタシジミの移殖について問題点を摘出し，放流試験を行った。詳細な調査結果は別に報告書(島水試資料№24)があるので参照されたい。

調　査　概　要

次の項目について調査を行い取りまとめた。

1．調査研究活動

1）宍道湖の概況と淡水化

2）宍道湖におけるシジミ漁業と漁場環境

3）既往のセタシジミの移殖状況

4）琵琶湖のセタシジミ漁業と生態

5）セタシジミ移殖試験

6）干出時間と放流後の歩留

7）シジミの軟体部重量

2．確定された指導内容

種　　苗　ヤマトシジミの代替として繁殖力と価格上からセタシジミを選定した。

移　　殖　琵琶湖での一時的な多量確保が困難なため，活力上から反復輸送せざるを得ない。

漁場環境　諏訪湖での移殖試験などから，漁場選定要因があきらかになった。宍道湖のシジミ漁場環境が明らかになった。

再生産　八郎湖でセタシジミの再生産が確保されたので移殖の可能性がもたれる。

3．残された問題点および解決の方向

種苗対策　セタシジミの資源量が減少傾向にあるので，種苗確保のために人工種苗生産技術の開発が必要になってくるであろう。

再生産　再生産機構の解明を行う。

そ の 他　資源増大のための漁業調整と販路の開拓を行う必要がある。